

上部消化管内視鏡検査(経鼻) 説明書

下記の方は、健康センターではこの検査は実施できません。

- 妊娠中の方、妊娠の可能性がある方
- 授乳中の方
- キシロカインアレルギーの方
- 抗凝固剤・抗血小板薬の服用、肝疾患や血液疾患などで血が止まりにくい方

下記の方は、健康センターではこの検査が中止になる可能性があります。

- 鼻腔が狭い、変形がある
- ※鼻腔から挿入できない場合、口からの内視鏡検査に変更するか、中止とします
- 当日収縮期血圧 180mmHg 以上の方

1. この検査の目的

この検査では細径の経鼻用の内視鏡を使用します。

鼻から直接内視鏡を挿入し、食道、胃および十二指腸を観察し(図1)、潰瘍、ポリープ、がん、炎症などの病気の発見・診断を行うことを目的としています。

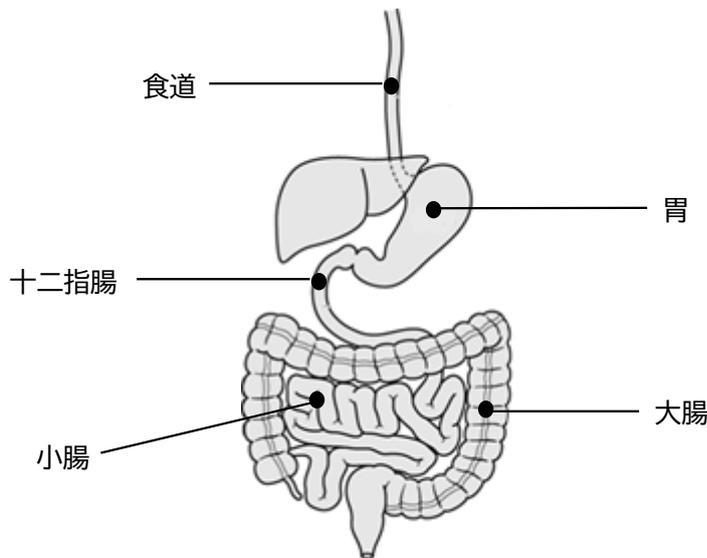


図1 食道、胃、十二指腸の位置

2. 検査の内容・注意事項

検査前日は 21 時以降に食事を摂取しないでください(飲水は可)。
検査当日の内容と注意事項は以下の通りです。

①経鼻内視鏡のメリットとデメリット

メリット

- ・内視鏡が直接のどに触れないので吐き気を感じにくい。
(全く感じないわけではありません。)
- ・内視鏡が細いので挿入の苦痛が少ない。
- ・検査中に質問などの会話ができる。

デメリット

- ・鼻出血を伴うことがある。

②前処置

- ・胃の粘液や泡を消し観察しやすくする薬(ジメチコン)を内服します。
- ・鼻出血予防の薬(トラマゾリン)と麻酔の薬(キシロカイン)の混合液を両鼻腔に点鼻します。まれに麻酔薬によるアレルギー反応(血圧低下や呼吸困難)が起こる場合があります。以前、内視鏡検査や歯の治療で気分が悪くなったことがあればお申し出ください。

③内視鏡の挿入

- ・内視鏡を鼻から挿入し、食道、胃、十二指腸に進めます。

④内視鏡による食道、胃、十二指腸の観察

- ・内視鏡を通じて空気を送り、食道、胃、十二指腸を膨らませて観察を行います。そのため、検査中は多少お腹が張ります。

⑤生検(組織採取)

- ・検査中に組織を採取する場合(生検)があります。この場合、胃の表面に少量の出血を伴いますが通常、自然に止まります。しかし、まれに出血が持続したり、大量出血となる場合があります。

3. 検査に伴う危険性

①前処置によるもの

- ・ジメチコン、トラマゾリン、キシロカインによるアレルギー(ショックなど)がありますが、このような症状がみられた場合は適切に対処します。これらの薬品に禁忌のある方はこの検査は行ないません。

②検査自体によるもの

- ・大量の鼻出血
- ・出血や穿孔

内視鏡検査時にごくまれに、のどや食道、胃、十二指腸を傷つけ、出血や穿孔(胃や腸に孔(あな)があく)などが起こることがあります。なお、出血がひどい場合には、内視鏡的処置や輸血が必要となることがあります。また、止血が困難な場合や穿孔が生じた場合には手術となることがあります。その際の診療は、保険診療で行いますのでご了承ください。

4. 検査後の注意事項

検査後は、鼻出血を起こしやすいので強く鼻をかまないでください。のども麻酔が効いていますので、約1時間は飲食を控えてください。生検が行われた場合には、帰宅後も再出血することがありますので、体の違和感、吐血や黒色便などにお気付きの場合には、遠慮なくご連絡ください。

5. 代替可能な検査

- ・口からの上部消化管内視鏡検査
 - ・上部消化管造影検査(胃透視)
- ※上部消化管造影検査の場合、生検を行う事はできません。

6. 検査の同意を撤回する場合

いったん同意書を提出しても、検査が開始されるまでは、検査をやめることができます。やめる場合にはその旨を健康センター職員までお申し出ください。

7. お問い合わせ

この検査について質問がある場合は、相澤健康センターまでご連絡下さい。